

博物館情報・メディア論

(解答はすべて解答用紙に記入し、この問題用紙に記入しないこと。)

1. 博物館の範疇には、美術館、歴史館、資料館、文学館、科学館、水族館、プラネタリウム、動物園、植物園などが含まれる。博物館は知識やその背景となるものの見方や考え方を広く共有するためのメディアの一つと考えることができる。メディアとしての博物館はどのような知識と考え方を、どのように伝えているのか、また、どのように使われているのかについて、【プラネタリウム】を例にして500字以内で論じなさい。(20点)

2. フェイクニュースについて、事例(国内外を問わず)を用いながら、特徴や問題点などを500字以内で論じなさい。(20点)

3. 次の文章の()に最も適する語句を下の①～③の選択肢より選びなさい。解答欄にはその番号を記しなさい。(各5点)

(1) ソーシャルメディアには「フロー型」と「ストック型」がある。以下のうち、「フロー型」にあたるものは()である。

①T w i t t e r ②Y o u T u b e ③I n s t a g r a m

(2) 国立民族学博物館の初代館長を務め、『情報の文明学』や『メディアとしての博物館』を著したのは()である。

①黒川紀章 ②梅棹忠夫 ③今西錦司

(3) 大量のデータの集積と分析で影響力をもつ()が提供するサービスやユーザー体験が、消費者が期待するものの新たな基準となっている。

①G A F A ②B R I C ③B R I S K

(4) EU一般データ保護規則()とは、欧州の個人データ保護に関する新しい規則であり、EU圏内の個人情報を扱う全世界の企業が対象となる。違反時に課せられる高額な制裁金からも注目を集めている。

①ISO ②GDPR ③RDAP

4. 次の(1)～(4)の文章のうち、それぞれ正しいものの記号1つを選びなさい。
(各5点)

(1) 新聞と世論について

- ①ガブリエル・タルドは『世論と群衆』(1901年)の中で印刷、鉄道、電信の進歩により、新聞読者が拡大したと述べた。
- ②チャールズ・クーリーは『社会組織論』(1909年)において、日刊新聞の発達によって多様な意見が生まれ、公共意識が希薄化したと述べた。
- ③ウォルター・リップマンは第二次世界大戦における宣伝戦を研究し、その成果を『世論』(1962年)に発表した。

(2) 「近代読者」について

- ①明治期に新聞や雑誌といった新しいメディアが誕生し、それらが木版印刷の普及によって廉価で発売された。そのため、個人で購入する人が増加し、日本人の読書は徐々に音読から黙読に変化した。
- ②明治の後期まで列車の中や図書館では音読が盛んであった。図書館規則によって音読禁止条項が普及したのは昭和期に入ってからである。
- ③明治の初期に新聞縦覧所が設けられ、次第に全国へ普及した。わずかな見料で複数の新聞が読める施設は庶民から重宝がられた。しかし、明治の中期になると、都市部を中心に新聞販売網が整備されて新聞の入手が容易になり、また図書館が整備されるにつれて新聞縦覧所は徐々に減少していった。

(3) 情報処理の基準となる協定世界時(UTC)について

- ①子午線を通過する天体を毎日観測することによって測定された地球の自転を国際的に平均することによって定められた時刻系である。
- ②イギリスのロンドンにあるグリニッジ天文台での平均太陽時に基づく時刻系である。
- ③世界時に同調するように調整された基準時刻によって示された国際原子時をもとにした時刻系である。

(4) 可視光領域での色について

- ①天然の色はすべてRGB (赤・緑・青) 色の光から構成されている。
- ②CMY (シアン・マゼンタ・イエロー) インクを用いたカラー印刷においてBk (黒) インクを用いるのは、見た目の美しさの向上のためだけではなく、インクを節約するためでもある。
- ③銀塩カラー写真に見る色は、銀塩化合物の電子状態によって光の成分が反射されたり吸収されたりすることにより各色が再現されている。

5. 次の用語を簡潔に説明しなさい。(各10点)

(1) 5G (第5世代移動通信システム)

(2) EdTech